

講義名	中国語 A		
担当教員	小笠原 恵子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

<p><b>主題と概要</b></p> <p>この授業は、「中国語入門ルール66」を教科書として使用する。番号順に配置されたルールを一つ取得する度に、前進を実感して頂けると思う。苦手な項目にチェックを入れたら、見直しも簡単。入門参考書として手元にあるととてもありがたい本である。</p> <p>各課のQRコードを読み込むと、その課の内容のリスニングが出来、音声資料は非常に使いやすく、正しい発音を沢山聴いて発音に強くなってほしい。</p> <p>準備学修で、リスニングでの予習・復習をして頂くため、宿題を指定する。授業に出る前に、新しく勉強する発音、文法についてある程度理解した上で授業に出るように求める。</p> <p>授業の時は、リスニング重視し、発音、文法を基礎から勉強する。発音と文法が正しいか確認すること、会話の練習をする事、また、暗記をする事をして頂く。また、随時、習得度をチェックし、必要に応じて発音と文法を復習し、強化する。</p> <p>対面授業中は、コロナ感染症対策のため、全員で同時に大きい声を出して発音練習をすることは減るが、可能な範囲内で、一人一人に授業中で発音し、会話の自信を身に付けてもらいたいと思う。</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>中国語の発音記号（ピンイン）を正しく流暢に読めるようになる。 単語の発音と基礎文法を暗記し正しい発音で言えるようになる。 字の書き方を正しく書き、基礎中国語の中国語・日本語の翻訳と通訳ができるようになる。 基礎会話ができるようになる。 単語力と文法力が付いてきて、自己紹介文が書け、自己紹介ができるようになる。</p>
---

<p><b>提出課題</b></p> <p>提出課題 各課の自ページは、練習の問題を含む、筆記宿題と指定する。 提出は、指定の授業に出席し、授業の最初に提出する。出席しない時と後からの提出は認めない。</p>
--

<p><b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b></p> <p>宿題と練習問題、テストで学生の習得状況を確認し、フィードバックする。</p>
---

<p><b>評価の基準</b></p> <p>宿題提出30%、中間試験30%、期末試験40%。</p> <p>中間試験は、第6課終了後に、期末試験は第12課終了後に行う予定であるが、進捗によって範囲の変更をする場合がある。</p> <p>欠席が授業総数の1/3以上で失格となる。授業態度が悪いときは、最終成績で評価が低くなる。</p>
---

<p><b>履修にあたっての注意・助言他</b></p> <p>三密を避け、座席指定にします。また、マスク着用や大声を出さない事、換気、消毒などに努め、安全を確保しよう。</p> <p>準備学修でリスニングをしながら、音読みを頻りにやってほしい。</p> <p>授業中でメールをしないこと。遅刻は2回で1回の欠席とみなす。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの変更が生じる可能性があります。</p>
--

<p><b>教科書</b></p> <p>.中国語 入門ルール.</p>	相原 茂 玄 宜尚	朝日出版社	2640	978-4-255-45330-9C1067

<p><b>プリント資料及び参考文献</b></p>
----------------------------

<p><b>授業計画</b></p> <p>1 発音編 1～2課 声調、単母音・副母音・子音・ 2 発音編 3～4課 鼻音・発音のつづり、その他 以下本編 3 第1課 人称代詞 「は」です」の言い方、副詞 4 第2課 指示代詞、疑問詞文、反復疑問文 5 第3課 形容詞述語文、否定文と疑問文 6 第4課 “的”日本語の“の”について 7 第5課 前置詞 “在”、“で” 8 第6課 数の教え方、年月日、曜日の言い方、“几”、“いくつ”、“呢”、“-は” 9 中間試験、試験後第7課 “物”を数える、“有”、“持つ”、“二”と“両” 10 第8課 “有”、“在”、“ある/いる”、“什么地方”、“哪儿” 11 第9課 “二”の“怎么”、“どうして”、“为什么”、“怎么”、“这么”と“那么”“こんな風に/あんな風に” 12 第10課 “進行”の表し方、三つの“在”、前置詞、助動詞1 13 第11課 “連動文”、使役の表し方、連綴文 14 第12課 “来”と“後”、“2つの否定のしかた。二重目的語を取る動詞、構態補語 15 第13課、もしくは、総復習 備考 授業の進捗はクラスの状況に合わせて適宜調整します。</p>
--

<p><b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b></p>		
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p>	<input type="radio"/>	<p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p>
<p>ウ：ディスカッション、ディベート</p>	<input type="radio"/>	<p>エ：グループワーク</p>
<p>オ：プレゼンテーション</p>	<input type="radio"/>	<p>カ：実習、フィールドワーク</p>
<p>キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）</p>	<input type="radio"/>	

<p><b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b></p> <p>自宅でリスニングをし、宿題を書くことによって、新しい知識を事前に理解しておくことが要求される。また、復習をしないと、上達しにくくなる。1週間に少なくとも4時間程度の予習と復習の準備学修をしてください。</p>
---

<p><b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b></p> <p>中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を習得するとともに、中国の社会や文化について理解する資質・能力を身につける。</p>
--

<p><b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b></p>
--------------------------------------

<p><b>実務経験の有無及び活用</b></p>
---------------------------

<p><b>備考</b></p>
------------------